

まちだの 新たな学校 づくり

Machida
New Concept School
2040



まちだの新たな学校づくりの 推進に向けて

新たな学校づくりでは 地域との関わりを 重視しています

町田市では、1960年代から大規模団地の建設などによって、人口が大幅に増加しました。これに応えるため、小・中学校も多く建設されました。しかし近年、少子化によって児童・生徒数の減少が進んでいることに加え、学校施設の老朽化が課題となっています。

こうした中で教育委員会は、2021年5月に「町田市新たな学校づくり推進計画」、「町田市立学校施設機能別整備方針」、「町田市立学校個別施設計画（学校整備計画編）」を策定しました。これらの計画に基づき、通学区域の見直しや学校統合と並行して、老朽化が進む校舎の建替えを行っています。

学校統合等を契機とした新たな学校は、学校教育の場であることはもちろん、地域と学校の繋がりを深めるため、コミュニティルームを整備するとともに、学校運営協議会を充実させる取組も進めています。この推進計画を進めるにあたり、引き続き地域の皆様の貴重なご意見をいただきたいと思います。「まちだの新たな学校づくり」にぜひご協力ください。



町田市長
石坂 丈一

新たな学校づくりを通じて 未来の子どもたちの 教育環境を刷新してまいります

教育委員会には、毎年PTAの皆さまから学校を良くするため様々なご要望を頂戴します。その中で最も多いのが施設の老朽化に関するご要望です。子どもたちの安全を守るために必要な修繕や改修は最優先で行っています。また、その他のご要望についても優先順位をつけて進めていますが、すべてにお応えしきれない現状がございます。

さらに、2040年度までに児童・生徒が約30%減少する見込みの中で、高度経済成長期に建設した学校施設が続々と耐用年数を迎えることから、すべての学校を建替えることは極めて困難な状況であり、学校統合の議論は避けることができないものでした。

教育委員会ではこの学校統合の議論を、未来の子どもたちにより良い教育環境をつくる機会と前向きに考え、2021年5月に「町田市新たな学校づくり推進計画」を策定しました。

新たな学校づくりを通じて、老朽化した学校施設をはじめ、未来の子どもたちの教育環境を刷新してまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。



町田市教育委員会 教育長
坂本 修一

まちだの 新たな学校 づくり

Machida
New Concept School
2040

ともに学び、ともに育つ 学び舎づくり — 2

1. 学校を取り巻く環境変化 — 4
2. 推進計画ってなんだろう — 6
3. 推進計画ができるまで — 8

新たな 教育環境を つくる — 10

4. 学校施設、何が困ってるの? — 12
 5. 新たな教育環境をつくる
 - ① 新たな教室をつくる〔小学校編〕 — 14
 - ② 新たな教室をつくる〔中学校編〕 — 16
 - ③ ラーニングセンターをつくる — 18
 - ④ 学校と地域が協働する拠点をつくる — 20
 - ⑤ 新たな職員室をつくる — 22
 6. 新たな通学区域 2040 — 24
 7. 新たな学校ができるまで — 26
 8. よくある質問と回答 — 28
- まちだの新たな学校づくり〔資料編〕

ともに学び、 ともに育つ 学び舎づくり

「学校統合＝新たな学校づくり？」
まちだの新たな学校づくりが
目指すものとは。

学校と地域が
協働する学校



教育の目的＝人格の完成 を目指して

学校に通学して学ぶ意味とは何だと思いませんか？

昔から「読み書きそろばん」と言いますが、学校には、読み書きや計算、各教科の学習を通じて知識や技能を習得するという大切な役割があります。

その一方で、子どもたちの習熟度に応じて学習内容を

示すソフトウェアが活用されつつあり、知識や技能の習得では、ICTを活用した教育活動が優位になっていくことが想定されます。

しかし、教育の目的が「人格の完成」であると考えたときに、学校には最も大切な役割があります。

それは、多様な価値観を持つ多くの子どもたちが、学校生活を通じて集団で話し合い、励まし合いながら学ぶことで、思考力、判断力、表現力を身に付け、社会性や



子どもたちが
学び合う学校

大人が子どもの
育ちを支える学校

大人も学び、
育つ学校

生活をより
豊かにする学校

人間関係を形成する力を育む「場」としての役割です。

この集団で生活し、学び合うことそのものが学校に通学して学ぶ意味だと考えています。

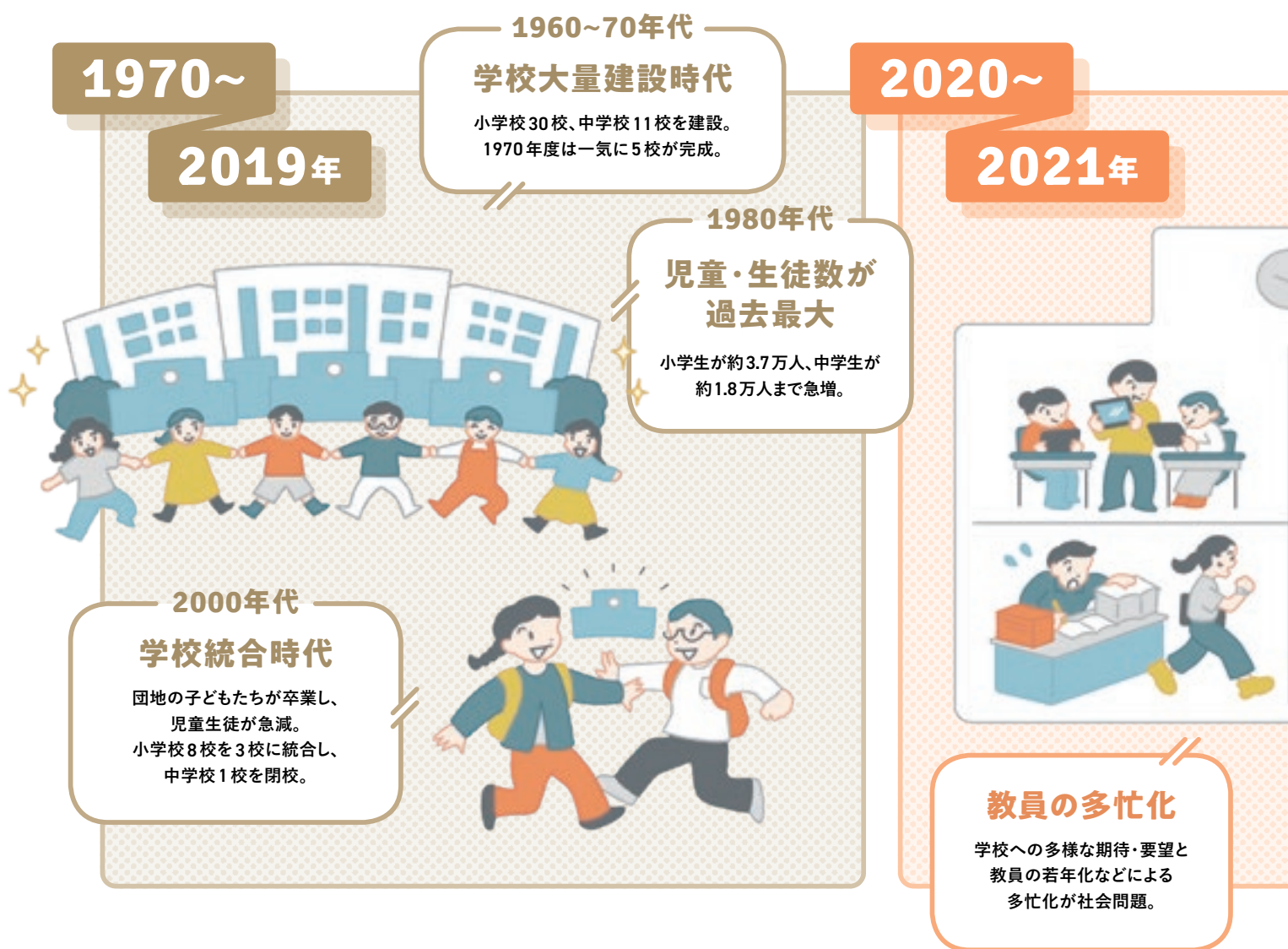
町田市は、少子化と学校施設の老朽化という問題に直面しており、学校統合を避けることはできません。

この学校統合を、学校に通学して学ぶ意味を踏まえた「ともに学び、ともに育つ学び舎」をつくる機会とするために「町田市新たな学校づくり推進計画」をつくりました。

まちだの新たな学校づくりを通じて、子どもたちだけではなく、大人もともに学び、ともに育つ場づくりを進めていきたいと思いますので、まちだの新たな学校づくりの取り組みにぜひご参加ください。

1 学校を取り巻く環境変化

町田市の少子化と学校施設の老朽化の状況と、教育環境の変化について、
歴史を振り返りながら見てみよう！



学校の建て替え時期が集中する理由とは

町田市は団地のまちです。高度経済成長期に大規模団地が建設されたことによって人口が急増しました。1965年には小学生が約1万人、中学生が約5千人だったものが、1980年代初頭には、小学生が3.7万人、中学生は1.8万人まで急増したことから、この時期に沢山の学校を建設しています。その後、大規模団地の子どもたちが卒

業したことで、2000年代初頭に小・中学校の一部を統合しました。

現在、少子化によって小・中学生は減少を続けており、2040年度には、小学生が1.5万人、中学生が7千人まで減少する見込みです（2020年度比約30%減）。

その一方で、高度経済成長期に建設した学校が一斉に老朽化を迎えています。全国の公立小・中学校の平均建替時期は築42年ですが、町田市立小・中学校では、2021年度時点で、築42年を経過している校舎のある学

ICTの積極的活用

児童・生徒に1人1台タブレット端末を配備し、学習方法が変化。

英語の教科化

小学校では外国語科(英語)が教科化。学習内容も変化。



地域と学校の協働

教育活動における地域との連携・協働が不可欠なものに。

小学生が15年間で
3.7倍も増えた時期があるんだ！
沢山の学校をつくる必要があったんだね。



2022~

2040年代

現在~2040年

児童・生徒数が
約30%減少

小学生が約1.5万人、中学生が約7千人まで減少する見込み。新入生が100人の学校が70人以下となる時代。



2024~2044年頃

築60年を超える学校が続出

2044年度までの期間に、市立小・中学校62校中55校が築60年に(年平均2.6校)。

校が62校のうち41校あります。

特に2024～2044年度は、築60年（鉄筋コンクリート造の建物の耐用年数）を迎える学校が集中しています。そして、建て替えや長寿命化改修にかかる費用が3,000億円を超えるため、すべての学校を維持することが難しいことから、学校統合の議論を進めてきました。

また、小学校における英語の教科化やICTを活用した教育活動の推進といった教育内容・方法の変化や、教員の多忙化、そして教育活動に不可欠となった学校と地域

の協働といった教育環境の変化に、1960～70年代頃に設計した学校施設が十分対応できていません。

このことから、学校統合を契機として、まちだの未来の子どもたちにより良い教育環境をつくるとともに、将来の環境変化にも柔軟に対応できる新たな学校づくりの議論を進める必要がありました。

2 推進計画ってなんだろう？

学校統合を契機としたまちだの新たな学校づくり。

その基本となる新たな学校づくり推進計画をご紹介します。

推進計画

〔町田市新たな学校づくり推進計画〕

「推進計画」は、学校統合を契機として、まちだの未来の子どもたちが夢や志をもち、未来を切り拓くために必要な資質・能力を育むことができる環境づくりを進めることを目的としています。



こうやって
通学区域や
学校の位置を
決めているんだね。

2 適正規模・適正配置の基本的な考え方

学校統合や通学区域を編成するためのルールブックです。1学年あたりの望ましい学級数や、通学時間・距離の許容範囲などを定めています。

学校統合はいつかしら？
新しい校舎は
いつできるの？



3 新たな通学区域 (P24 参照)

2040年度に実現することを目指す通学区域です。通学区域の編成や学校候補地、新校舎で教育活動を開始する目標年度などを定めています。

工事時期の
具体化



新しい学校は
どうなるの？
市民は学校で
何ができるの？

1 新たな学校施設整備の基本的な考え方

新たな学校施設を建設するための理念と方針です。学校に通学して学ぶ意味を踏まえた学校づくりの理念や、環境変化への対応方針などを定めています。

まちだの新たな学校づくりに 込めた願いとは

少子化と学校の老朽化によって、すべての学校を建て替えることが難しい状況では、学校統合の議論を避けることができませんでした。

しかし、学校統合の議論を避けることができないとするならば、統合して建設する学校は、町田に生まれ育つ子どもたちが未来を切り拓くために必要な資質・能力を地

域ぐるみで育むような新たな教育環境をつくりたいと考えています。

この願いのもとに、審議会を設置して検討を重ね、学校統合を契機として新たな学校を建設するうえでの基本理念・基本方針を定めた「新たな学校施設整備の基本的な考え方」と、学校統合や通学区域を編成するためのルールブックである「適正規模・適正配置の基本的な考え方」をまとめました。

この基本的な考え方では、1学年あたりの望ましい学



なるほど、
学校の統合が
目的では
ないんだね！

整備方針

〔町田市立学校施設機能別整備方針〕

「整備方針」では、新たな学校施設を建設するための理念と方針を具体化するために、整備する施設機能別に室数、面積、配置などを定めています。

理念・方法
の具体化



よし、教室の位置は
ここにしよう。
教室の数は
足りているかな。

整備イメージ〔学校施設整備事例 普通教室の面積〕

小学校（P14 参照）

64㎡→110.5㎡（約1.7倍）※

中学校（P16 参照）

64㎡→80㎡（約1.2倍）

※ オープンスペースありの場合

無しの場合：64㎡→72㎡（約1.1倍）

個別施設計画

〔町田市立学校個別施設計画〕

「個別施設計画」では、推進計画と整備方針を踏まえて、計画的に老朽化対策を進め、新たな学校に求める機能を確保するための改修や建て替え工事の想定時期や費用などを定めています。

費用の具体化



工事の時期は
いつかな？
建て替えにいくらぐらい
かかるのかな？

級数を、小学校が「3～4学級」、中学校が「4～6学級」としました。

また、徒歩による通学距離の許容範囲を、文部科学省の基準である小学校4km、中学校6kmよりも厳しい、徒歩でおおむね2km程度（小・中学校共通）と定め、通学時間の許容範囲を概ね30分程度としました。

このルールブックをもとに、2040年度までに小学校を42校から26校、中学校を20校から15校に再編する「新たな通学区域」をまとめ、学校統合を契機とした新たな

学校づくりを推進するために「町田市新たな学校づくり推進計画」をつくりました。

そして、この推進計画に掲げた新たな学校施設の理想を具体化するために、「町田市立学校施設機能別整備方針」「町田市立学校個別施設計画」を一緒につくりました。

まちだの新たな学校づくりを推進することで、教育を重視する子育て世帯が町田市に住みたくなるような新たな教育環境に刷新していきます。

3 推進計画ができるまで

推進計画をどのようにつくったのか、なにを大切にしてきたのか。

推進計画ができるまでの歩みを見てみよう！

2018年度

6月

公共施設再編計画 の策定

少子高齢化による税収減と
社会保障費の増加。
この将来の見通しの中で、
建物総量を削減しながら公共施設の
より良いかたちを目指す計画を策定。

なるほど。

小学校の保護者の約70%、
教員の約80%が3学級を
望ましいと回答したんだな。



2019年度

6月

適正規模・配置の アンケート調査

1学級あたりの
望ましい学級数や、
通学時間の許容範囲などについて
保護者と教員に
アンケートを実施。

意見総数 1,620 件！

※学校統合を含めた見直しに必要な配慮

8月

適正規模・ 適正配置審議会

アンケート結果をもとに、
学校統合や通学区域を
編成するためのルールについて、
保護者・地域・教員代表と
学識経験者で議論。

3月

基本的な考え方 決定

1学年あたりの望ましい学級数や、
通学距離・通学時間の
許容範囲などの学校統合や
通学区域を編成するための
ルールを決定。

まちだの未来の
子どもたちに
より良い教育
環境をつくるには
どうしたら
いいだろう？

まちだの未来の子どもたちに より良い教育をつくるために

推進計画をつくるうえで基本となったのが、2018年6月に策定した「町田市公共施設再編計画」でした。

再編計画では、今後の少子高齢化による税収減と社会保障費の増加などによって、すべての公共施設を維持することはできないという結論を出しました。そのうえで、建物総量を圧縮しながら、新たな時代に適応した公

共施設・公共空間のより良いかたちをつくる、という目標を掲げています。

特に学校は、少子化と深刻な学校施設の老朽化に直面しており、学校統合の議論は避けることができないものでした。そこで教育委員会では、学校統合を契機とした新たな学校づくりを進めるために、2019年から2020年度にかけて審議会を設置し、「適正規模・適正配置の基本的な考え方」と「新たな学校づくり推進計画」について議論しました。

審議会ってなんだろう？

保護者や学校の先生も
参加して議論できるんだね。

市が進める計画等について、市民の皆さまの意見や専門的知識をより反映したり、公正さをより確保する必要がある場合に審議会を設置します。

審議会には、議論してほしいテーマに

ついて、「諮問」という形で意見を求めます。審議会は、この意見を求められた諮問内容について議論を行い、「答申」という形で意見をまとめる役割を担っています。



2020年度

5月

まちだの新たな 学校づくり審議会

学校統合を契機とした新たな学校施設整備の理想(基本的な考え方)と、その理想を実現するための新たな通学区域について、保護者・地域・教員代表と学識経験者で議論。

6月

新たな学校づくり アンケート調査

学校統合を含めた通学区域の議論を丁寧に行うため、事前に新たな通学区域案を示したうえで、アンケート・意見募集を実施。

5・7月

通学区域・学校づくり の検討部会

通学区域と新たな学校施設について、より丁寧な議論をするために2つの検討部会を設置。実務担当者を交えて議論。



審議会の議論の様子

意見総数6,921件！

※新たな通学区域の実現に必要な配慮など

2021年度

5月

推進計画の策定

審議会からの答申を踏まえて、新たな学校施設の理想や新たな通学区域、新校舎使用開始目標年度などを定めて推進計画を策定。



この議論の中で、特に大切にしたいのが、「まちだの未来の子どもたちの視点で議論すること」「開かれた丁寧な議論すること」でした。審議会での議論は、現在だけではなく、未来のまちだに生まれ育つ子どもたちにより良い教育環境をつくる視点から常に議論が交わされました。

また、広くご意見を聴きながら丁寧な議論をするために、各年度の具体的な議論に先立ってアンケート調査を実施し、その結果を尊重した議論が行われました。審議

会についても、開催した審議会とその議事録をすべて公開するなど、開かれた議論を進めてきました。

そして、1年8カ月の期間において、延べ31回の議論を経て、推進計画(案)が答申されました。この推進計画(案)をもとに学校施設の老朽化の状況を踏まえて、新校舎を使用開始する目標年度などを定めて、2021年5月に策定したのが「町田市新たな学校づくり推進計画」です。

新たな 教育環境を つくる

大きな環境変化に直面するまちだの学校。
その環境変化に対応できる
新たな教育環境を探検してみよう！

学校で
過ごしやすい
なるのかしら？

〔中学生〕

中学2年生：新しい学校では
どんな工夫があるのか
ワクワクしている。

新しい学校は
どんな学校に
なるのかな？

〔小学生〕

小学3年生：探検が大好きで
新しい学校の探検を
楽しみにしている。



環境変化がもたらす 学校施設の困りごととは

町田市の学校の多くは1960～70年代に設計・建設しています。これらの学校が築60年を迎えていきますが、老朽化だけが学校施設の課題ではありません。

これまで総合的な学習や習熟度別の少人数指導、小
学校における英語の教科化、ICTを活用した教育活動の

推進といったように、教育内容・方法が大きく変化して
います。

そして、ICTを活用した教育活動が進展することが想定
される中では、学校に通学して学ぶ意味を踏まえて、協働
的な学習を重視した教育活動を進める必要があります。
しかし、町田市の多くの学校施設は、これらの環境変化
に十分対応することができていません。

また、教育活動を担う・支える人たちの学校施設環境

学校は建物が古くなっているけど、どのようなことに困っているのかな？

〔保護者 父〕

子どもたちの父：教育環境と先生の働く環境を良くしたいと思っている。

荷物は全部収納できるのかしら？ゆとりのある広さがあるといいわね。

〔保護者 母〕

子どもたちの母：荷物の多さを心配しているので収納や広さに興味津々。

子どもたちが学びやすい教室になるかしら？

〔先生〕

小学校の先生：学校の困りごとからどうしたらより良くなるかを考えている。

授業準備もしやすくなると良いわ。

避難所が運営しやすくなるといいんじやが。

〔地域の人〕

子どもたちの祖父：地域の防災に力を入れているので避難施設に興味がある。



にも課題があります。町田市では、多忙化する教員の負担を軽減するために、教員を支援する人材を配置しています。そして、学校支援ボランティアに代表されるように、教育活動における地域との協働は不可欠なものとなっています。

しかし、教員以外の人材とチーム体制を構築して学校経営を行うことを想定して学校施設を設計していないことから、これらの人材の環境に十分な配慮をすることが

できていません。

このような学校の困りごとを、新たな学校づくりでどのように解決していくのか。その新たな教育環境を調査するために「新たな学校づくり探検隊」を結成しました。探検隊と一緒に、推進計画でつくる新たな教育環境を見てみましょう。

4

学校施設、何が困ってるの？

1960～70年代に設計・建設した学校施設は、
教育環境の変化に対応できず、困っていることがあります。
それをランキングで見よう！



そうそう、
こういうことで
困っているのよね。

教室の困りごと



んー！狭くて
全然入らない！

小学校 1位 82.9%

中学校 1位 82.8%

児童・生徒の収納スペース

教室の困りごと第1位は、小・中学校ともに収納スペースでした。
ランドセルやカバンを含めた学用品の多くが、
ロッカーに収まらずに、廊下やロッカーの上に置かれています。

小学校 2位 72.9%

中学校 2位 75.9%

教室の広さ

第2位は、小・中学校ともに教室の広さでした。
昔の普通教室の広さは小・中学校で8m×8mの64㎡です。
協働的学習を充実させるためには、十分な広さではありません。

小学校 3位 71.4%

中学校 3位 72.4%

ICT環境

小学校の第3位は、ICT環境でした。
校舎内の、ネットワーク環境の
整備が課題です。

黒板・ホワイトボード (板書・投影スペース)

中学校の第3位は、
黒板・ホワイトボードでした。
板書・投影スペースが課題です。

小学校の声

- 現代の児童の持ち物に対して、収納スペースが狭い。ロッカーの奥行きが短く、ランドセルが落ちる。廊下のフック等のスペースが狭く、廊下にもものが落ちていることが多い。時期によって多少の増減はあるものの、常時学校に置いておかなくてはならない一人あたりの持ち物数が多く、置き場も叫ばれている中でかなり困っている。
- 以前に比べ、学級の中でグループを組んで調べ

たり、話し合ったりという活動が多くなっている。主体的で対話的な深い学びを行うにあたっては、対話的な活動をする際に、子ども同士が机を寄せ合ったり、グループにしたりすることも考えられる。しかし、動かすスペースがないので、広い教室や教室外のスペースが必要である。

● ICT環境は電波が届きにくい。Wi-Fi環境の改善が必要。

中学校の声

- 教室に生徒個人の持ち物を入れる十分なスペースがない。リュック・部活ユニフォーム等が入る大きさの個人ロッカーが必要。
- 生徒の荷物が増えているためカバンが大きくなっている。カバンがロッカーに入らず、机の横にかけられるため机間巡視もままならず、生徒もつまずくことがよくある。
- 40年前に学校が出来たときより、生徒の体格も大きくなり、机やイス、荷物も大きくなっている。教室

の広さが現状に合っていない。

● 教室では、ディスカッションや協働作業する人数に応じて、机をいろいろな形に配置したり、個々の机を離したり、自由に動かすことのできる余裕の広さが必要。

● プロジェクターを使用すると黒板の半分が使えなくなる。黒板ではなくホワイトボードを置くと良い。

昔つくった学校が 今の時代に合わなくなっている

困りごとランキングを見てみると、昔つくった学校が今の時代に合わなくなっていることがわかります。学用品が増えているけれど収納スペースに収まらない、協働的学習をするための十分な教室の広さがなく、学校をチーム

で支えるために教員以外の人材が増えているけれど職員室に机が置けないなど、学ぶ内容や方法、体制が変わっていく中で、将来の環境変化にも柔軟に対応できる学校施設が求められています。

※ 以下のランキングの出典は「まちだの新たな学校づくりに関するアンケート調査～学校施設機能のあり方編～（町田市立学校の学校施設機能のあり方に関する教員アンケート調査）」です。

教室以外の困りごと



みんなで仕事をするには狭い！

職員室

小学校 3位 77.5%

中学校 1位 82.8%

職員室

職員室の困りごとは、教員や教育活動の支援人材の人数に見合った面積と機能が十分でないことです。

職員用休憩スペース・休憩室

小学校 1位 78.1%

中学校 4位 70.4%



準備室があるといいんだけど。

ボランティア人材の活動場所

ボランティア人材の活動場所の困りごとは、ボランティア人材や学校支援人材の準備室やスペースが十分でないことです。

学校支援人材・ボランティア人材用スペース・諸室

小学校 2位 78.0%

中学校 3位 71.4%

小・中学校の声〔職員室〕

- 職員の数に比べて、職員室の広さが十分でない。外部人材が多数登用されるようになり、それらの人の机を職員室に確保したい。今ある机の数では足りず、共用スペースで仕事をしている方もいる。
- 職員用休憩スペースがない。休憩スペースは職員室から近い場所に、明るく

- 開放的な空間として設けられないと、使おうという気持ちにならない。
- 会議スペースがない。話し合うスペースが必要。そこからクリエイティブな発想が生まれる。
- 印刷室は作業台が十分に確保出来ないうえ、空調もなく非常に厳しい環境。

小・中学校の声〔ボランティア人材の活動場所〕

- 学校には、正規教員に加え、様々な方がボランティアで関わっている。その方たちの準備室や作業スペースが足りていない。
- 各種ボランティアの控え場所が全く無い。

- ボランティアコーディネーターや地域の方が集える場所が必要と考える。
- PTAや地域が自由に活動できるスペースと空調の完備が必要である。

推進計画でつくる新たな教育環境を
探検に行こう！



5 新たな教育環境をつくる①

新たな教室をつくる〔小学校編〕

推進計画でつくる、未来の小学校の教室を探検してみよう！

小学校の教室を 見てみよう！

普通教室は、学校に通学して学ぶ意味を踏まえて、協働的な学習や子どもたち同士のコミュニケーションが促進されるような環境を整備します。

小学校では、協働的な学習を展開しやすくするために、オープンスペースの整備や、十分な収納スペースをつくることによって教室の広さを確保します。そして、可動式大型提示装置（プロジェクタ型電子黒板）などのICTの活用を前提に、投影面・板書面として活用することができるホワイトボードを整備します。

どう変わる？ 小学校の普通教室

- 1 協働的な学習や学年単位の活動を展開しやすいオープンスペースを整備。
- 2 普通教室の面積
 $64\text{m}^2 \rightarrow 110.5\text{m}^2$ （約1.7倍）
- 3 板書面・投影面を兼用できる
ホワイトボードを整備。
- 4 可動式大型提示装置
（プロジェクタ型電子黒板）を設置。
- 5 机周辺の荷物を収納することが
できる十分な収納スペースを確保。

大型提示 装置

って何かな？

教材やみんなの意見を
拡大して共有したり、
書き込んだりできるんだよ。

教室の面積

これはすごい！
机を自在に動かすことが
できる広さがあるな。

オープンスペース

授業で広く使ったり、
同じ学年で
すぐに集まることもできるのね！



ホワイトボード

授業にも使えるし、
お知らせやみんなの作品の
掲示もできるのね。



収納スペース

廊下や棚の上に
置いていた荷物も
全部ロッカーに入るわ！



※ 町田市立学校 施設機能別整備方針にまとめた
機能拡充の内容をイラストにした整備イメージです。

新たな教育環境をつくる ②

新たな教室をつくる [中学校編]

推進計画でつくる、未来の中学校の普通教室を
探検してみましょう

中学校の教室を 見てみよう！

中学校は、協働的な学習を展開しやすくするために、体格に合わせて教室の面積を1.2倍に拡大します。

また、中学生の荷物を収納して机を移動しやすくするために、個人単位のロッカーを整備します。

そして、小学校と同様に可動式大型提示装置を整備するとともに、ロッカーを整備した場合でもICTを活用した教育活動を展開しやすくするために、投影面・掲示面として活用することができるホワイトボードを整備します。

どう変わる？ 中学校の普通教室

- 1 机の間隔を確保できる
ゆとりある教室の広さを確保。
- 2 普通教室の面積
64m²→80m²（約1.2倍）
- 3 板書面・投影面・掲示面を
兼用できるホワイトボードを整備。
- 4 可動式大型提示装置
（プロジェクタ型電子黒板）を設置。
- 5 大きなカバンや持ち物が入る
十分な収納スペースを確保。

大型提示装置

なるほど、大型提示装置が
左右に動くのか。
これなら使い方も自由自在だな。



※ 町田市立学校 施設機能別整備方針にまとめた
機能拡充の内容をイラストにした整備イメージです。

ホワイトボード

横にもホワイトボードだ！

書き込んだり、
プロジェクタから
資料や映像を
映すことも
できるのね。

ロッカー

コートもリュックも
全部ロッカーに入るのね！
助かるわ。



教室は
こんなに
広くなるのか！

教室の広さ

中学生は体格が
大きいからこれくらいの
広さが必要なのよ。

新たな教育環境をつくる ③

ラーニングセンターをつくる

多様なメディアを活用しながら協働的な学習ができる
ラーニングセンターを探検してみよう！

図書室

=ラーニングセンター!?

これまでの図書室に加えて、図書や視聴覚教材といった多様なメディアを活用しながら協働的な学習を展開することができる「ラーニングルーム」を備えることで、教育活動の拠点となる「ラーニングセンター」として整備します。

このラーニングセンターは、教育活動の拠点であることを基本としつつ、放課後活動または地域開放等で活用することを想定した位置に配置することで、より開かれた活動拠点とします。

ラーニングセンター って何だろう？

- 1 図書や多様なメディアを活用しながら協働的な学習を展開することができるラーニングルームを整備。
- 2 可動式の机や椅子を使用し、普通教室よりも多様な学習活動の展開が可能。
- 3 大型提示装置で壁面全体に教材や動画などの投影が可能。
- 4 図書室の閲覧スペースを同時に使用できるよう間仕切りと遮音に配慮。

遮音と 間仕切り

間仕切りがあるから、
音を気にしないで
良さそうね。



※ 町田市立学校 施設機能別整備方針にまとめた
機能拡充の内容をイラストにした整備イメージです。

大型提示装置

こんなに大きく投影したり、
書き込んだりもできるのか。

僕、本物と
同じ大きさのサイと
背比べしたんだよ！

他のクラスが
使っていても、
調べ学習がすぐに
できるのね。



机・椅子が 動かせる

机や椅子がすぐ動かせて、
床でも活動ができるよ。

ここで地域の活動も
色々できそうじゃな。



新たな教育環境をつくる ④

学校と地域が協働する拠点をつくる

学校と地域が協働する拠点となるコミュニティルームと
避難施設を探検してみよう！

コミュニティルームと 避難施設を見てみよう！

学校は、教員だけではなく保護者や様々な地域
人材に支えられて運営しています。この学校と地
域の協働をさらに充実させるために、コミュニテ
ィルームを整備します。

コミュニティルームは、学校の教育活動を支援す
る学校支援ボランティア等の活動・準備スペースと
し、多世代の学校支援ボランティアの活動拠点と
して活用します。また、コミュニティスクールの活動な
ど、学校と地域の協働の拠点としても活用します。

防災備蓄倉庫のような避難施設の運営に必要な
施設機能について、避難施設から使いやすい位置
に整備します。

地域協働の拠点・ 防災拠点はどう変わる？

- 1 教育活動を支援する
学校支援ボランティア等の
活動・準備スペースを整備。
- 2 学校運営協議会(コミュニティスクール)
をはじめとした学校と地域の
協働の拠点を整備。
- 3 避難施設の運営に必要な
施設機能について、避難施設と
一体的または近接的な位置に整備。

コミュニティルーム 昼



教育活動を 支援

いろんな年代の
人が集まって
学校支援ボランティアの
準備をして
くれているのね。



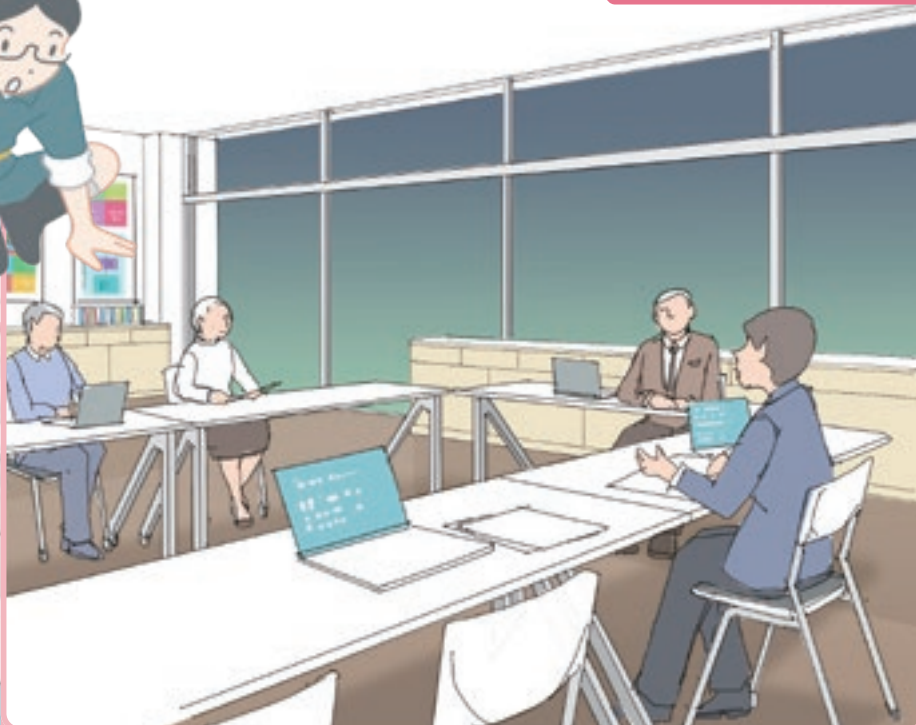
※ 町田市立学校 施設機能別整備方針にまとめた
機能拡充の内容をイラストにした整備イメージです。

活動の拠点

コミュニティスクールの
会議もここで開くことが
できるんだ。



コミュニティルーム 夜



避難施設

防災備蓄倉庫

避難施設と防災備蓄倉庫が近く
にあると、荷物を運びやすそうじゃな。



準備していただく
場所がなかったから、
コミュニティルームが
できて良かったわ。



避難施設 として利用

新しく学校をつくと、
防災拠点の作り方も工夫できるし、
避難施設が利用しやすくなって
助かるわね。

新たな教育環境をつくる ⑤

新たな職員室をつくる

学校を支えるチーム体制を推進する
新たな職員室を探検してみよう！

新たな職員室を 見てみよう！

職員室は、特別支援教育を担当する教員や、教員以外に教育活動に携わる人材（以下「支援人材」）も含めて1つの職員室内で執務することができる広さ（3.5教室分以上）で整備し、学校を支えるチーム体制を推進します。

また、職員室に、休憩をしながら情報交換・共有するためのコミュニケーションスペースや、効率的に作業するための印刷・教材作成スペース、スムーズに打合せするための会議スペースを併設し、教職員が働きやすくなる環境を整備します。

どう変わる？ 新たな職員室

- 1 すべての教員や支援人材が
1つの職員室で執務することができる
面積（3.5教室分以上）で整備。
- 2 効率的に印刷・教材作成を行うために、
印刷・教材作成スペースを一体的に整備。
- 3 様々な仕事の打ち合わせをスムーズに
行うために、会議スペースを整備。
- 4 休憩をしながら情報交換・共有を
するためのコミュニケーションスペースを
職員室に併設して整備。

コミュニケーション スペース

先生にも休憩できる
スペースが必要ね。



職員室の広さ

これだけ広いと
先生以外のスタッフも
一緒に仕事ができそうじゃな。



※ 町田市立学校 施設機能別整備方針にまとめた
機能拡充の内容をイラストにした整備イメージです。

印刷室

コピー機や印刷機が
すぐ近くにあって
作業しやすいのだ。



会議スペース

会議スペースが
近くにあると、すぐに集まって
話せて助かるわ。



子どもたちだけでなく、
先生や地域にとっても
良い環境になるんだね。
新しい学校が
はやく出来るといいね！

6 新たな通学区域 2040

通学区域はどうなるの？ 2040年度までに実現を目指す
通学区域と学校候補地、検討着手時期をご紹介します。

統合したら
同じ学校だね！
私たちの学校はいつから
話し合うのかな？

新たな通学地域一覧表



2025年4月に「町田市新たな学校づくり推進計画」の一部修正を行い、通学区域や学校統合と建替えの時期等を変更しました。
現在パンフレットの更新作業を行っているため、新たな通学区域については2025年4月に策定した「町田市新たな学校づくり推進計画（一部修正）」をご確認ください。

なお、一部修正の内容を反映したパンフレットは、6月頃に掲載する予定です。

一緒につくろう！

あなたの地域の新たな学校

推進計画では、2040年度までに実現を目指す新たな通学区域を示したうえで、これまでのページで紹介した新たな学校施設機能を備えた新たな学校をつくる候補地や、新たな学校の基本計画の検討に着手する目標年

度、統合後に新校舎で授業を開始する目標年度、学校を統合する想定の日年度を定めています。

このページでは、推進計画に定めた新たな通学区域と学校候補地、基本計画検討着手目標年度などについて、ご紹介します。

※ 学校統合を契機とした新たな学校づくりを進めるプロセスについては、P26「7 新たな学校ができるまで」をご覧ください。

新たな学校の候補地と新しい校舎ができる時期

2025年4月に「町田市新たな学校づくり推進計画」の一部修正を行い、通学区域や学校統合と建替えの時期等を変更しました。現在パンフレットの更新作業を行っているため、新たな通学区域については2025年4月に策定した「町田市新たな学校づくり推進計画（一部修正）」をご確認ください。なお、一部修正の内容を反映したパンフレットは、6月頃に掲載する予定です。

7 新たな学校ができるまで

まちだの新たな学校づくりは、保護者や市民の皆さまとともに進めていきます。
その新たな学校ができるまでの道のりを見てみよう！

Start

2021年5月
推進計画
決定

新たな学校施設整備の理想と、
その理想を実現するための
新たな通学区域を決定。

2021年
10月～11月
推進計画
説明会

推進計画の概要や、
推進計画策定までの経過、
今後の進め方について説明します。

みんなで話を
聞きに
行ってみよう！



新たな学校の
基本計画決定

新たな学校の基本計画を
教育委員会で決定。
新校舎の設計に着手します。

どのような学校にしたいか、
みんなで話し合ってみます。

学校名や教育目標、意見交換会で出た
検討課題、新校舎建設基本計画、
統合する学校の歴史の継承など
について、みんなで話し合っ
て基本計画にまとめます。



みんなで考えた
基本計画をもとに
学校をつくっていくぞ。



新しい友達が増えて、
大きいクラス替え
みたいだね！

学校統合

新たな学校の基本計画で
決めたスケジュールをもとに
学校を統合します。



学校統合の時期は
学校ごとに異なります。

新校舎建設の工事スケジュールや
仮設校舎の要否などによって、
新校舎建設工事の
開始前に統合する場合や、
新校舎完成後に
統合する場合があります。

みんなでつくる 新たな学校づくりを目指して

学校は、放課後活動の拠点、防災活動の拠点、地域活動の拠点としての役割を果たしていることから、学校を統合してつくる新たな学校は、市民の皆さまに参画いただいてつくっていきます。

説明会を通じて、推進計画の概要や今後の進め方を説明するとともに、現在の通学区域を単位とした意見交換会を開催して、統合新設校の設置に向けた検討課題を丁寧に把握していきます。そして、意見交換会で把握した検討課題を踏まえて、市民の皆さまに参画いただく基本計画検討会を設置して具体的な検討を進めていきますので、まちだの新たな学校づくりにぜひご参加ください。

統合新設校 意見交換会

現在の通学区域の単位で開催。
「基本計画検討着手目標年度」
の早い通学区域から開催。



なるほど！
私たちの新しい学校は
こうやってつくるのか。

通学区域ごとに開催。 未就学児の保護者も 参加可能！

通学の負担軽減や安全対策、
学校統合時の子どもたちへの配慮など
保護者や市民が
気になることを意見交換し、
検討課題を確認します。

新たな学校の 基本計画検討会

新たな学校をつくるための検討課題について、
新たな通学区域ごとに検討会を設置。
保護者、地域住民、教員を交えて検討。



新たな学校 完成!!

工事

新校舎建設工事は、
旧校舎の解体工事も含めて
3年程度かかります。



新しい学校ができた！
みんなで
子どもと学校を
育てていこう！

Goal

8 よくある質問と回答

推進計画に関連して、これまでに保護者や地域住民の皆さまから
お寄せいただいたご質問のうち、よくある質問と回答をご紹介します。



〔保護者の方〕

Q1 学校の統合により、子どもの通学距離が遠くなります。どのような配慮がありますか？

A1 お住まいに近い学校がある場合、通学区域緩和制度で就学を希望することができます。また、公共交通機関のさらなる活用やスクールバスの導入などのような様々な負担軽減策について、地域の実情やニーズを踏まえて検討・実施する予定です。

Q2 私の子どもは、学校統合時に通学する学校が変更になります。転校せずに変更前の学校に通い続けることは可能ですか？

A2 学校を統合する時点で、通学区域が変更になる地域にお住まいのお子様は、在籍していた学校が統合となった新設校と、通学区域変更後の指定校から、通学する学校を選択できるよう配慮いたします。



〔地域の方〕

Q3 学校の跡地はどうなりますか？

A3 学校が廃校となる時期によって、社会や地域の状況が変わることが想定されるため、統合新設校の具体的な検討に着手後、学校跡地の活用についても検討していきます。

Q4 母校がなくなるのは寂しいです。何か思い出や歴史を残せないでしょうか？

A4 統合する学校に各校の歴史、伝統をどのように引き継いでいくか、基本計画検討会において地域住民の皆さまと検討していきます。

まちだの新たな学校づくり [資料編]

まちだの新たな学校づくり(本紙)に掲載した資料と、
資料の確認方法をご紹介します。



1 町田市新たな学校づくり推進計画

「推進計画」は、学校統合を契機として、まちだの未来の子どもたちが夢や志をもち、未来を切り拓くために必要な資質・能力を育むことができる環境づくりを進めることを目的として、新校舎使用開始目標年度などを定めています。

2 町田市立学校個別施設計画

「個別施設計画」は、建替えや改修工事を計画的に行うため、老朽化状況の整理と建替えや改修などの整備に関する考え方を定めています。

3 町田市立学校個別施設計画(学校整備計画編)

「個別施設計画(学校整備計画編)」では、推進計画と整備方針を踏まえて、建替えや改修工事の想定時期や費用などを定めています。

4 町田市立学校施設機能別整備方針

「整備方針」では、新たな学校施設を建設するための理念と方針を具体化するため、施設機能別に室数、面積、配置などを定めています。

5 町田市公共施設再編計画

「再編計画」は、公共施設・公共空間のより良いかたちの実現を目指して、公共施設再編の基本的な考え方を示しています。

こちらからご覧ください

推進計画などの資料は、町田市ホームページにも掲載しています。資料の1から4は、下のQRコードからアクセスすることができます。再編計画やアンケートの報告書などは、アクセスしたページから検索してください。

まちだの新たな学校づくり
に関するお知らせ
[町田市ホームページ]



通学区域の変更や時期などは、まちだ子育てサイトで詳細を確認することができます。

市立小・中学校の
通学区域(学区)
[まちだ子育てサイト]



まちだの新たな学校づくり Machida New Concept School 2040

発行 町田市教育委員会
〒194-8520 東京都町田市森野 2-2-22
2021年9月発行(2024年6月更新)
刊行物番号:21-38

編集 町田市教育委員会学校教育部 新たな学校づくり推進課
デザイン 藪内新太
イラスト 佐久間 茜

リサイクル適性

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



まちだの新たな
学校づくり

Machida New Concept School 2040